

るため、バス路線の見直しに着手しており、地域公共交通網形成計画を策定中である。また、新たな民間バス事業者の参入も視野に入れ、市民ニーズ等を踏まえ、多様な公共交通路線の構築を考えなければならぬ時期にきていると考

新大村駅周辺整備 事業計画の見直しを求める

宮田 真美 議員

Q 長崎新幹線で開発が進められているフリーゲージトレインは、平成26年11月の走行試験中に不具合が生じ、現在も開発再開の目途が立っていない。7年後の開発に間に合う根拠がはっきりしない中、多額の税金を投入する新大村駅周辺整備事業を計画どおり進めてよいのか。中断して、フリーゲージトレインの開発再開の推移を見守るべきではないか。

A 新幹線については、従来どおり鉄道・運輸機構等とじっくりよく話し合っていく。フリーゲージトレインの開発については、確かに揺れている部分があるが、この問題もクリアできないことはないかと考えている。フリーゲージトレインが理想ではあるが、それが

ダメな場合はフル規格であり、今後とも計画は進めしていく。

都市公園の利用で 明るい健康社会を

水上 享 議員

Q 市内の都市公園には幼児や子どもの遊び場として遊具が設置されているが、夏季においては、木陰がなく利用できない状況である。落葉樹等の大木の下に遊具を配置すべきである。また、高齢者の健康づくりのため「背伸ばしベンチ」等の健康遊具を設置し、幼児からお年寄りまで笑顔で利用できる都市公園にすべきである。

A 遊具の高温化については、早急な改善策はないが、今年度策定する公園長寿命化計画の中で、軽減策を研究したいと考えている。また、高齢者の健康づくりのための健康遊具の設置については、子どもが利用して事故等が発生した事例があっており、子どもの遊具との混在を避けるなどの安全対策が必要になるため、広さなどの条件を考慮し、必要に応じた整備を進めていきたい。

新幹線木場トンネル 着工に関する市の対応は

村上 信行 議員

Q 新幹線柴田地区の問題において、6月議会における市の答弁から工事契約に柴田地区の関連附帯工事も含むものと理解していたが、鉄道・運輸機構は含まないと言っている。市はどのような説明を受けているのか。また、説明会で契約について周知せず、1件の用地買収もしていない中、工事を着工することができるのか。今後、数十人の地権者との交渉が困難になるため、了解を得ることを要望すべきではなかったのか。

A 鉄道・運輸機構に確認したところ、柴田地区内の附帯工事は新幹線本体工事とは別に区分され、木場トンネル他工事の契約に含まれていないということであった。また、平成34年春の新幹線開業までに完成させるためには、事業進行管理の観点から、効率的に事業を進める必要性があると聞いており、関係する地権者の皆様には、用地取得の個別協議が進められている。

新幹線柴田地区の 対策協議会について

村上 信行 議員

Q 新幹線柴田地区の問題への対応については、市が協議会の事務局となっているが、構成員に専門家や関係者が入ることを要望しているのか。地元から出されている8項目の要望や柴田地区の附帯工事は含まれていないため、地元の要望を十分に反映させる必要がある。次回の協議会から、地元の傍聴者を認めず、秘密会にするとの話があるが、公開とし、協議が整えば、全体説明会を実施する必要があるのではないかと。

A 協議会における柴田町内会からの構成員の人选については、町内会にお願いしている。また、次回の協議会が非公開になったことは初めて聞いたが、市と鉄道・運輸機構と地元の話し合いの場であるため、公開、非公開については、三者の総意が必要となる。

道の駅(仮称)長崎街道 鈴田峠開業に向けて

廣瀬 政和 議員

Q 道の駅(仮称)長崎街道鈴田峠については、10月に認可の